



『最新世界史図説 タペストリー 二十四訂版』に込めた想い

株式会社帝国書院 第二編集室歴史班

◆ 『最新世界史図説 タペストリー』について

本書は、『タペストリー』という書名にも表れている通り、「時間軸(タテの流れ)と空間軸(ヨコの繋がり)が整理できる世界史資料集」をコンセプトに、2003 年に発刊いたしました。世界史の学習は、各時代におけるさまざまな地域のつながりが重視される方向に変化してきており、その多岐にわたる学習内容をわかりやすく“整理”して提示することで、現代に通じる世界史への理解を深めてもらいたいという想いが、本書発刊の背景にあります。

近年では、2022 年度から始まった新課程の学習内容に合わせ、「世界史探究」でもご活用いただけるよう、内容をアップデートしております。また、日々刻々と変化する社会情勢、大学入試の傾向などにも対応できるよう、最新情報を反映した変更を毎年の改訂で行っております。

発刊24 年目となる今年度も、大学入試対策に最適な資料集として、本書の特色を維持しつつ、大学入試「世界史探究」の出題に対応した、「探究」ページ(巻頭 3-16)を強化したほか、ウクライナ情勢に関する特集ページ「今、注目のトピックから世界史に迫る」を更新いたしました。入試対策については、別冊の紹介冊子も作成いたしましたので、そちらもご参照下さい。

特に力を入れて編集した点について、下記に詳しくまとめております。以下、ご審査用見本とともに、ご一読いただき、本書に込めた私たちの想いをお汲み取りいただきましたら幸いです。

◆ 『最新世界史図説 タペストリー 二十四訂版』の特色

1. 大学入試問題の対策ができる「探究ページ」の強化

「探究 入試問題から考える」(巻頭 13-16)では、慶應義塾大学法学部の入試で実際に出題された、「核兵器の売買」に関する問題を取り上げたページを追加いたしました。このページでは、1970 年代の政治体制や対立軸を入試問題と絡めながら明らかにしたうえで、核戦争勃発の危機が高まった 1980 年代から、「冷戦の終結」に向けて世界の歴史が大きく変化していく様子を考察できる展開にいたしました。

また、「探究 読み解き演習①～④」(巻頭 5-12)は、近年の入試問題の傾向に対応し、絵画、グラフ、史料などを読み解いて「問い」に対する答えを導き出すページでございます。このページでは、複数の資料を「背景や原因」「異なる立場」などの多面的・多角的な視点を活用して読み解く方法を、基礎から学ぶことができます。

2. 時間軸(タテ)と空間軸(ヨコ)が整理しやすい構成

本書は、コンセプトの通り、「時間軸(タテ)」と「空間軸(ヨコ)」が整理しやすくなるよう編集しております。見開きページ両端の「ガイドインデックス」と「地域インデックス」をご覧いただくと、どの時代、どの地域を学んでいるのかが確認できるため、地域や時代が前後する世界史の学習において活用しやすい機能となっております。

また、通史ページの導入として、資料読解コーナーの「ヒストリーシアター」がございます。このコーナーは、見開きページごとに設置しており、各見開きを絵画・写真を読み解くことから始められるようにしています。習慣的にこのコーナーに取り組むことで、大学入試で求められる資料読解力が身につくよう工夫しております。

全 27 図の世紀別にまとめられた「世界全図」(p.2-51)は、時代の概観を把握するのに役立ちます。そして、QR コンテンツには、p.6-51 の地図を収録し、時代によって変化する世界全図を連続して見るができるようにしております。

3. 最新の社会情勢、時事問題から歴史に迫る特設ページ

本書では、刻々と変化する社会情勢に対応するために、最新情報を盛り込んだ改訂を行っております。巻頭の「特集 今、注目のトピックから世界史に迫る」では、最新の世界情勢をトピックに、その歴史的背景や因果関係について学習することができます。

「Topic① ロシアによるウクライナ侵攻」(巻頭17-18)は、「ウクライナから見たロシア」と「ロシアが考えるウクライナ」の双方の視点から、ウクライナ侵攻について理解を深めることができます。今改訂では、「ロシアが考えるウクライナ」を地理、経済、民族など複数の観点から考察できるようにいたしました。

また、2025 年版現行本から引き続き、最新のパレスチナ情勢について学習できる「Topic② パレスチナ武装勢力とイスラエルの武力衝突」(巻頭19-20)を掲載しております。ハマスに捕らえられた人質の解放を訴えるデモや、イスラエル軍によって破壊されたガザ地区の様子など武力衝突の現状を入口に、パレスチナ問題の根本的な原因を解説しております。歴史的な視点、中立的な立場から考察できるよう、「ユダヤ人とパレスチナ人の歴史的形成」について解説したうえで、対立の経緯をユダヤ人とパレスチナ人双方の視点から説明しております。

◆ おわりに

私ども編集部は、よりよい歴史教材をめざして、引き続き皆様のご意見に向き合い、一層の内容向上を続けていく所存でございます。弊社の教材開発と、それによる教育環境の向上を願う取り組みをご理解いただきまして、『最新世界史図説 タペストリー 二十四訂版』をご検討賜りますようお願い申し上げます。